

1月24日（水）、農林水産省の補助事業の一環で、一般社団法人日本有機資源協会が主催する「第5回食品産業もったいない大賞」の表彰式・事例発表会が開催されました。この賞は持続可能な食品産業の発展に向けた取り組みを促進・支援する企業・団体・個人を広く表彰するものです。生団連の会員企業様も受賞されておりますので、ご紹介いたします。

農林水産大臣賞 ユニー株式会社 食品リサイクルループは命をつなぐ環



今回受賞された取り組みを簡単に教えてください

ユニーでは、食品リサイクル法を順守し、食品廃棄物の発生抑制に取り組んでいます。2007年に全国で初めて、食品リサイクル法に基づく「再生利用事業計画」の認定を環境大臣・農林水産大臣・経済産業大臣から受けて以来、店舗所在地域の再生利用事業者、農業生産者とのパートナーシップを基に、食品リサイクルループの継続的運用と新たな構築を進めています。



食品残渣を排出するユニーと、堆肥や飼料を製造する再生利用事業者、それを使って農畜産物を生産する農業生産者、そしてそれを販売して消費者に届けるユニーの、「食品リサイクル=命をつなぐ環」を回し続けることが、地域循環農業です。社内の役割としては、再生利用事業者の選定や製造する堆肥・飼料の品質確認については環境担当者が、生産された農産物の品質確保や販売については仕入れ担当者が責任を持って担当しています。

こうした野菜はエコ野菜売場としてコーナー化し、生産者の顔を付けて販売する等、他の商品との違いをアピールすることで差別化しています。おかげさまでお客様から品質面でも評価され、好調な販売となっています。



◀▲エコ野菜売場と実際に販売されている野菜



食品も含めて、廃棄物削減のポイントは何でしょうか？



スーパーマーケットの店舗では、様々な商品を扱っておりますので、様々な廃棄物が発生してしまいます。こうした営業活動から発生する廃棄物を、ユニーでは、2003年から、リサイクル資源として活用するために素材ごとに19分類に分ける分別と、廃棄物の発生状況を把握し、発生抑制効果を測定する計量を実施しています。こうして廃棄物を見える化することが、廃棄物の排出量を削減する大きなポイントであると思います。また食べられる食品が店舗で廃棄される「製品廃棄」の削減においては、消費者と連携した取り組みが必要であると思います。



次世代を担う子供たちへの環境教育にも力をいれていますね！

ユニーでは、持続可能な社会を担う子供達が、お店探検や農業体験・自然探検をなどを通じて、環境、社会貢献、食糧問題、命の大切さなどを学び、美しい自然の中で生きていくための力を育むことを願い活動しています。

食品リサイクルに関連した所では、子供達を対象に、未利用食品（生ごみ）を原料に堆肥を製造する堆肥場の見学を行なっています。ここでは、野菜くずと魚のアラを堆肥場に入れて、発酵させ、堆肥を作ります。発酵する時はガスが発生し、臭気も強いのですが、出来上がった堆肥は完熟なので、臭いも消え、さらさらとした土のようになります。

またこうした堆肥を利用した畑での収穫体験も実施し、子供達へ生物多様性の仕組みを知る良い機会になっていると評価しております。



▲堆肥場の見学



▲堆肥を使用した畑での大根の収穫体験

今後はどのような展開を考えられているのですか？



企業としてフードバンクにもチャレンジしていきたいとも考えています。現状ではトレーサビリティの明確化に課題がありますので、ここがクリアにできる商品群からでも先行して進めていきたいと思います。

POINT !



- ・ 廃棄物を分別・計量し、見える化することで削減！
- ・ 店舗の展開する地域で再生利用事業者・生産者と連携！
- ・ 次世代を担う子供達への環境教育も充実！